

岩手県上閉伊郡大槌町被災文化財
確認調査報告書

2012年2月

岩手歴史民俗ネットワーク

例言

- 1、本書は、岩手県上閉伊郡大槌町で実施した東日本大震災によって被災した文化財の確認調査報告書である。
- 2、調査対象とした文化財は、津波及び火災による直接的な被災範囲及びその近接地に所在していたことが確認されている文化財の内、名勝・天然記念物などの自然系の文化財を除外したものである。
- 3、調査は2011年9月から2012年1月にかけて岩手歴史民俗ネットワークが大槌町教育委員会と連携して実施した。
- 4、岩手歴史民俗ネットワークの事務局は、岩手大学が実施している「岩手県沿岸復興プロジェクト事業」の「地域文化財の保護活動」の一環として事務局業務を行ったため、それにかかわる経費(消耗品費、事務局員の旅費など)は岩手大学予算から支出した。それ以外の経費は岩手歴史民俗ネットワークに寄せられた寄付金から支出した。寄付は一般社団法人日本考古学協会、岩手民俗の会、東北史学会、新潟歴史資料救済ネットワーク、歴史資料ネットワーク(兵庫県)、小林ジュンジ氏、中屋洋子氏、矢田俊文氏から寄せられたものである。
- 5、本書の執筆は菅野文夫(表2)、安田隼人(Ⅲ)、佐藤由紀男(前記以外の項目)が担当した。なお、印刷に当たっては、岩手歴史民俗ネットワーク連絡会議委員の校閲を受けた。
- 6、本調査にかかわる記録類(大槌町歴史資料所在確認地図、大槌町被災歴史資料所在確認調査票、撮影した写真データ)は大槌町教育委員会が保管している。
- 7、本書及び本調査にかかわる問い合わせ先は、以下の住所の岩手歴史民俗ネットワーク事務局である。

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18-33 岩手大学教育学部

日本史研究室(菅野文夫)

考古学研究室(佐藤由紀男)

目次

I、調査に至る経過	1
II、大槌町の概要	1
III、調査の方法	2
1、調査準備	2
2、悉皆調査(フィールドワーク)	3
3、調査票の整理と報告書の作成	3
IV、調査の体制と経過	3
1、調査体制	3
2、調査経過	4
V、調査結果	7
1、浪板地区	7
2、吉里吉里地区	7
3、赤浜地区	8
4、安渡地区	8
5、町方地区	9
6、大槌地区	10
VI、成果と課題	10
表	11
写真図版	17

I、調査に至る経過

岩手歴史民俗ネットワーク(以下、「岩手歴民ネット」と略す)は、東日本大震災による文化財被害に対応するために、岩手県内を活動拠点とする岩手県文化財愛護協会、岩手考古学会、岩手史学会、岩手民俗の会、蝦夷研究会(五十音順)が結集して設立したネットワークである。今回の大槌町における被災文化財の確認調査は、その活動である「東日本大震災対策プロジェクト」の一つとして実施した。

2011年4月26日に発足した岩手歴民ネットでは、まず岩手県内各市町村の文化財の被災状況を把握するために5月6日付文書にて県内市町村教育委員会に対し、未指定文化財を含む文化財の被災状況調査をアンケートの形で実施し、15市町村から回答を得た。そして、岩手県教育委員会から提供を受けた情報も含めて5月19日の第2回岩手ネット連絡会議で対応を検討した。その結果、震災による被害が特に大きく、文化財行政を含む行政組織へのダメージも大きい大槌町において文化財の被災状況を悉皆的に調査し、震災復興の資料として町に提供するとともに、文化財の被災状況把握のモデルケースとして提示することを決定した。

そして、後述する文献調査などの準備作業を開始した。6月12日には大槌町教育委員会生涯学習課長の佐々木健氏と面談し、教育委員会としての協力・連携を快諾していただいた。さらに7月21日には大槌町教育委員会を訪問し、佐々木課長、社会教育文化班長の畠山拓也氏と調査実施に関する具体的な打ち合わせを行った。以後は畠山氏が継続して担当していただくことになる。

II、大槌町の概要

岩手県の陸中海岸の中央部よりやや南に位置する大槌町は、北は山田町、南は釜石市、西は遠野市・宮古市と接し、東は太平洋に面した人口13,404人(2011年12月1日現在)の町である。東の海岸は沈降海岸の特徴を持つ典型的なリアス式海岸であり、西は北上山地の峰々が連なる。

沿岸部は船越湾に面した浪板・吉里吉里地区と大槌湾に面した赤浜・安渡・町方地区に二分され、浪板地区と吉里吉里地区、赤浜地区と安渡地区は西方の北上山地から延びる丘陵によって区分されている。また、浪板・吉里吉里地区と赤浜・安渡・町方地区は子鯨山(458m)から吉里吉里半島先端へと延びる丘陵によっても区分されている。

北上山地の溪谷に発する大槌川と小槌川の二河川は合流するかの様な形で大槌湾に注ぎ、その下流域には僅かな沖積地が形成されている。町方地区はこの沖積地上の市街地であり、

町役場、消防署、JR 山田線の大槌駅などが置かれていた(図 1)。

人口の多くは沿岸部に集中していたこともあり、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災では大きな被害を受けた。町長以下の町役場幹部の多くが死亡、行方不明になるなど行政機能が一時は麻痺状態に陥るほどであった。2011 年 7 月 25 日現在の死亡者と行方不明者の合計は 1,563 人であり、被災時の人口の 10%程になる。岩手県の被災沿岸市町村の平均は 2.5%であるから、その被害の甚大さは突出している。

III、調査の方法

1、調査準備

(1) 調査方法の参考事例

震災時における文化財等の救援・調査方法は、阪神淡路大震災(1995 年)を契機として結成された歴史資料ネットワークをはじめとする、同様の歴史資料救援団体の事例が蓄積されている。

今回の調査は、東北地方において先進的な事例を蓄積してきた NPO 法人宮城歴史資料保全ネットワーク(以下「宮城資料ネット」と略す)の方法を主に参考として、被災地における悉皆調査(フィールドワーク)と、その事前準備である被災地内の文化財等の所蔵者及び所在地特定のための文献調査を実施した。

(2) 調査地の区分

大槌町の地区名に沿い、浪板・吉里吉里・赤浜・安渡・町方・小槌・大槌・金沢の 8 地区に区分した。そして、直接的な被災域である浪板・吉里吉里・赤浜・安渡・町方地区と大槌・小槌地区の一部(安渡地区、町方地区に近接している地域)を調査対象とした。

(3) 文献調査

東日本大震災では、大槌町においても多くの文化財が被災した。県町指定・未指定に係わらず、それらの救援と応急処置が望まれたわけだが、町内に所在する文化財の全体的及び個別的な記録は必ずしも整っているわけではなかった。そこで、大槌町史編纂委員会『大槌町史』上巻(大槌町役場 1966)、大槌町史編纂委員会『大槌町史』下巻(大槌町役場 1984)、大槌町漁業史編纂委員会『大槌町漁業史』(大槌町漁業協同組合 1983)、『大槌町の文化財』(大槌町教育委員会 1977)、『大槌のオシラァさま』大槌町文化財調査報告書第 1 集(大槌町教育委員会 1987)、『大槌町内遺跡分布調査報告書 赤浜・吉里吉里・浪板地区・小槌川流域』大槌町文化財調査報告書第 4 集(大槌町教育委員会 1989)、『大槌町内遺跡分布調査報告書 町方・安渡地区・大槌川流域・小槌川流域』大槌町文化財調査報告書第 5 集(大槌町教育委員会 1990)、花石公夫『閉伊の木喰 慈泉と祖晴』(1998)に掲載されている文化財を悉皆的に抽出した。

また、それら抽出された文化財は、抽出しただけでは所蔵者及び所在地特定が不可能な

ため『ゼンリンの住宅地図大槌町』'85（ゼンリン1985）と『ゼンリン住宅地図上閉伊郡大槌町』（ゼンリン2010）と摺り合わせ、所蔵者及び所在地特定の概要把握を行った。

なお、これらの文献調査は安田隼人が担当した。

2、悉皆調査（フィールドワーク）

悉皆調査は、上述の文献調査をもとに作成した「大槌町歴史資料所在確認地図」を参考として個別確認を行い、文献調査の結果と個別確認の結果を「大槌町被災歴史資料所在確認調査票」（【表1】を参照、以下「調査票」と略す）に記入するとともに、現況の写真撮影を行うという方法で実施した。ただし、文献調査で特定した所蔵者及び所在地は、あくまでも概容把握に過ぎず、必ずしも正確なものではない。そのため、悉皆調査時に周辺住民への聞き取りを行い、その特定に努めることにした。その際、必要に応じて文化財の応急処置も行った。なお、この調査票書式の作成にあたっては東北学院大学博物館が文化財レスキュー活動で使用した「調査票」や歴史資料ネットワークの「パトロール調査結果票」、宮城資料ネットの「歴史資料・文化財調査用紙」、越佐歴史資料調査会の「歴史資料被災状況調査カード」を参考にした。

3、調査票の整理と報告書の作成

調査参加者の各人が作成した調査票は事務局で語句などの統一を行った後、大槌町教育委員会において基礎資料として保管することにした。また調査票を基に『岩手県上閉伊郡大槌町被災文化財確認調査報告書』を作成・刊行することにした。ただし、本報告書における被災文化財の記述は、個人情報に関係する箇所を除いたものである。

IV、調査の体制と経過

1、調査体制

調査は岩手歴史ネットの連絡会議委員を中心に実施し、各団体の会員へ参加を促すとともにNPO法人文化財保存支援機構のホームページに情報を掲載していただき、会員外の参加者も募った。

また、連絡会議委員の指導を受けている大学生も適時参加した。

岩手歴史ネットの役員構成は以下のとおりである。

代表 及川和哉(岩手県文化財愛護協会)

副代表 熊谷常正(岩手考古学会)

事務局 菅野文夫(岩手史学会)・佐藤由紀男(岩手史学会)

連絡会議委員

代表、副代表、事務局、伊藤博幸(蝦夷研究会)、大石泰夫(岩手民俗の会)、兼平賢治(岩手史

学会)、中田功一(岩手民俗の会)、樋口知志(蝦夷研究会)、誉田慶信(岩手史学会)、松本博明(岩手民俗の会)、八木光則(岩手考古学会)、安田隼人(岩手史学会) (五十音順)

2、調査経過

<9月1日・2日>

吉里吉里地区、浪板地区の調査を実施した。調査に当たっては大槌町文化財保護審議会委員の関谷徳實氏の協力を得た。

参加者 大石泰夫、菅野文夫、熊谷常正、佐藤由紀男、嶋根隆一、松本博明、宮敏子、八木光則、安田隼人、渡邊久美子(五十音順)

<10月19日・20日>

前回の調査で被災を確認した吉里吉里地区の前川家資料(古文書と掛け軸)の陰干し、簡易クリーニング(砂の除去とエタノールの噴霧)、写真撮影、分類を吉里吉里地区体育館で実施した。前川家資料の内、古文書は20日に盛岡市に搬出し、処理のために岩手県立博物館に搬入した。前川家資料に関しては、今回も関谷徳實氏の協力を得た。また、大槌町文化財保護審議会委員の佐々木重吾氏に大槌町内の文化財についての聞き取り調査を実施した。

参加者 岩館岳、蝦名裕一、兼平賢治、菅野文夫、佐々木悟、佐藤由紀男、嶋根隆一、宮敏子、安田隼人(五十音順)

<10月29日・30日>

29日は、前回に引き続き前川家資料(掛軸)の陰干しと写真撮影を吉里吉里地区体育館で実施した。掛軸の一部は30日に盛岡市に搬出し、古文書と同様、処理のために岩手県立博物館に搬入した。また、今回も関谷徳實氏の協力を得た。30日は赤浜地区・安渡地区と町方地区の調査を実施した。

参加者 青木留美子、石渡真美、蝦名裕一、大石泰夫、兼平賢治、佐々木悟、佐藤一伯、佐藤由紀男、宮敏子、安田隼人(五十音順)

<11月5日・6日>

町方地区の調査を継続するとともに、大槌地区の調査と吉里吉里・赤浜地区の補足調査を実施した。

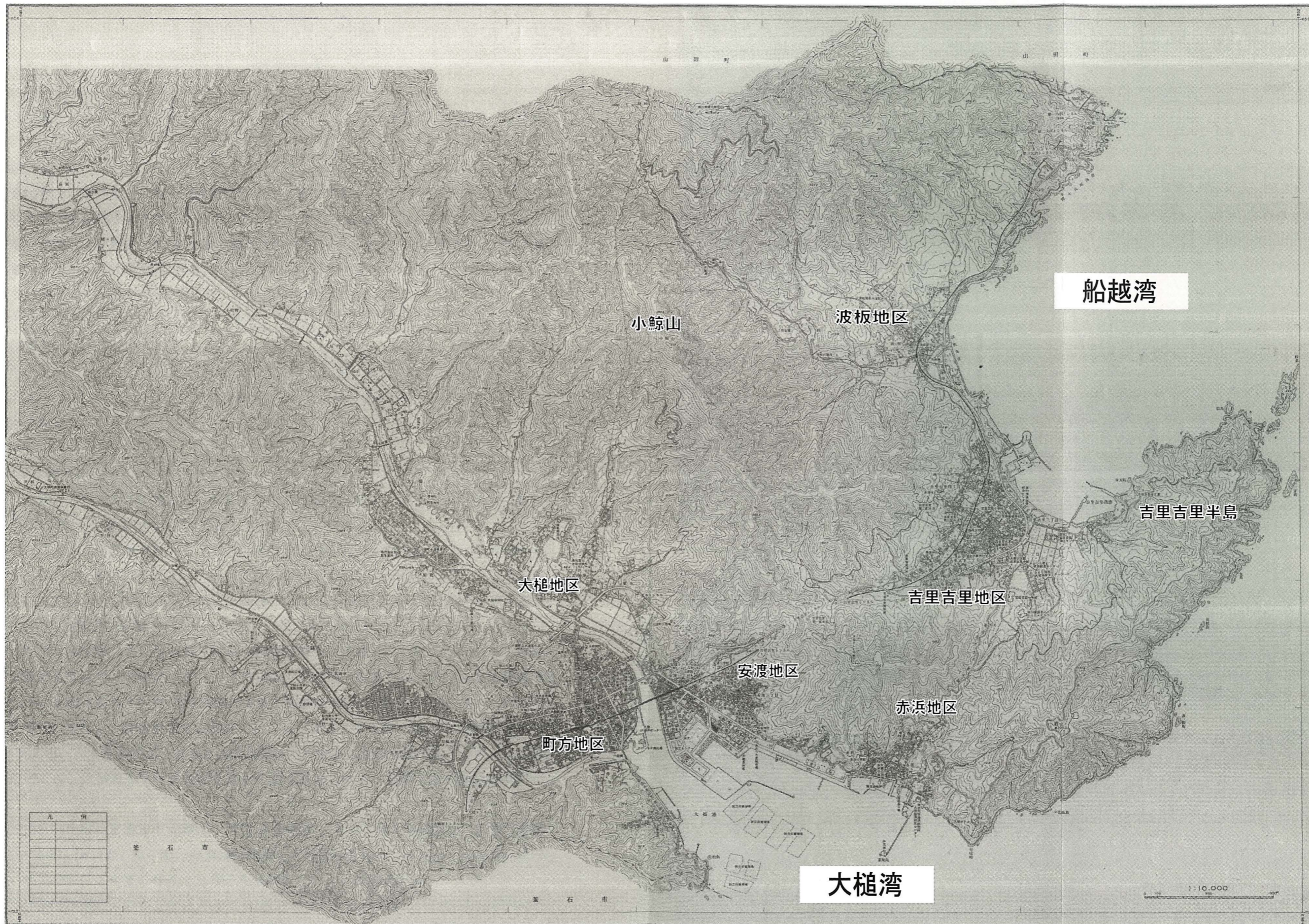
参加者 佐々木悟、佐藤奈津季、佐藤由紀男、三浦一樹、村野井渉(五十音順)

<1月10日>

町方地区、安渡地区の補足調査と台野家文書に関する調査を実施した。今回の調査で大槌町内の直接的な被災範囲とその近接地の現況確認が終了した。

参加者 安田隼人、八木光則(五十音順)

図1 調査範囲



V、調査結果

調査結果の詳細は表2を参照していただくこととし、ここでは地区ごとの概要を述べる。

1、浪板地区

調査対象とした浪板地区は、地番では吉里々々第7地割から第14地割である。

浪板地区で確認調査を実施した文化財は7件(いずれも未指定)である。

有形文化財は、平野家文書(第2表の調査票番号23、以下番号のみを記載する)(第2表の所在地番号27、所在地番号は前述のゼンリン2010の地図番号であり、以下省略する)、宇夫方文書(28)、台野家文書(34)であり、いずれも被害は確認されなかった。

無形民俗文化財は、浪板大神楽(22)である。本年度の祭礼での奉納は、不可能であったことが確認された。

有形民俗文化財は、オシラサマ(23)の1件であり、被害は確認されなかった。

記念物(埋蔵文化財)は、アサガ尻砲台場跡(31)、碓川砲台場跡(92)であり、いずれも明確な被害は確認されなかった。

2、吉里吉里地区

調査対象とした吉里吉里地区は、地番では吉里吉里1丁目から4丁目と吉里々々第5地割、第30地割から第32地割である。

吉里吉里地区で確認調査を実施した文化財は、33件(内、2件は町指定文化財)である。

有形文化財は、塚鼻稻荷神社(2)、前川稻荷大明神(4)、金毘羅神社(14)、釈迦如来像(29)、吉祥寺(30)、天照御祖神社(35)、前川家文書(36)である。塚鼻稻荷神社(2)、釈迦如来像(29)、吉祥寺(30)では被害は確認されなかったが、それ以外の4件は被災していた。

前川家では古文書以外にも掛軸や屏風、陶磁器類等を所蔵していたが、すべての資料が浸水の被害を受けた。その内のいくつかは流失したものと推測されるが、大方の資料は家人などにより回収されていた。古文書類は3月下旬に乾燥作業(陰干し)が成されていたため、カビの発生は少なく、比較的良好な状態であった。10月19・20・29日に資料の詳細を確認し(写真2)、古文書590点と掛軸4幅を処理のため岩手県立博物館に搬入した。この処理に当たっては、大槌町教育委員会から岩手県教育委員会あてに依頼文書を提出していただいた。

無形民俗文化財は吉里吉里虎舞(19、町指定文化財)、吉里吉里大神楽(20)、吉里吉里鹿子踊(21)である。大神楽、鹿子踊は道具類の流失などの被害を受けていたが、それらは新調されていた。なお、本年度の祭礼で3件とも奉納されたことが確認された。

有形民俗文化財は、オシラサマ6件(5～10)とマイリノホトケ(9、町指定文化財)である。

オシラサマは 8 と 10 の 2 件は良好な状態で保管されていたが、他の 4 件は、震災により所蔵者宅の基礎部分のみが残存するような現況であり、詳細は不明である。マイリノホトケも同様である。

記念物は、史跡の塚鼻一里塚(2)と前川善兵衛歴代の墓(13)である。塚鼻一里塚(2)では被害は確認されなかったが、前川善兵衛歴代の墓(13)では墓石が 1 基転倒していた。

記念物(埋蔵文化財)は、畑中遺跡(1)、新館跡(3)、三日月遺跡(11)、吉里吉里Ⅱ遺跡(12)、田中館跡(15)、赤沼経塚(16)、向館跡(17)、崎山弁天遺跡(18)、新城館跡(24)、吉里吉里Ⅲ遺跡(25)、古寺遺跡(26)、北田遺跡(27)、花道遺跡(32)、吉里吉里Ⅰ遺跡(33)である。いずれも明確な被害は確認されなかった。

3、赤浜地区

調査対象とした赤浜地区は、地番では赤浜 1 丁目から 3 丁目である。

赤浜地区で確認調査を実施した文化財は、10 件(いずれも未指定)である。

有形文化財は、岡谷家系譜略(61)である。震災により所蔵者宅の基礎部分のみが残存するような現況であり、詳細は不明である。また 71 の古館昭二家文書は、聞き取り調査によれば赤浜 1 丁目の個人宅で保管されていた可能性が高いが、被災状況の詳細は不明である。

有形民俗文化財は、オシラサマ 1 件(60)である。ここも所蔵者宅の基礎部分のみが残存するような現況であり、詳細は不明である。

記念物(埋蔵文化財)は、赤浜Ⅱ遺跡(59)、三日月神社経塚(62)、三日月遺跡(63)、赤浜Ⅰ遺跡(65)、赤浜Ⅳ遺跡(66)、赤浜Ⅲ遺跡(67)、イエノ沢遺跡(99)である。いずれも明確な被害は確認されなかった。なお、蓬莱島に所在する弁天島経塚(64)は、島に渡る方法が確保されなかったため、未確認である。

4、安渡地区

調査対象とした安渡地区は、地番では安渡 1 丁目から 3 丁目である。

安渡地区で確認調査を実施した文化財は、15 件(うち 3 件は町指定文化財)である。

有形文化財は、安渡小学校所蔵郷土資料(54)、二渡神社(現大槌稻荷神社)(55)、二渡神社(現大槌稻荷神社)縁起(55)、前川善兵衛寄進二渡神社(現大槌稻荷神社)石灯籠(55、町指定文化財・歴史資料)、前川善兵衛寄進二渡神社(現大槌稻荷神社)手水鉢(55、町指定文化財・歴史資料)、三浦家系図録等(56)、阿蘭陀船入港の記録(57)、大槌古城物語(58)、嘉永 6 年騒立押寄手扣(70)、口開前鮪漁誤証文・嘉永 5 年各浦連名嘆願書(72)、明治 30 年代大槌湾内図(73)、安渡支所文書(公文書)(74)である。二渡神社(現大槌稻荷神社)の建造物は一部が流失したものの、社殿は被害がなかった。同神社所蔵の縁起や石灯籠、手水鉢も被害は無い。それ以外の有形文化財は、震災以前から所在が不明、もしくは震災により所蔵施設・所蔵者宅の基礎部分のみが残存するような現況になっているものが多く(小学校は移転)、詳細は不明である。なお、個人所蔵の「鉄造如来像」(105、町指定文化財・彫刻)は所蔵者宅の特

定ができなかったために今回の確認調査の対象外としたが、町教育委員会が被害のないことを確認した。

有形民俗文化財は、オシラサマ 2 件である。二渡神社(現大槌稻荷神社)所蔵のオシラアさまは被害がなかったが(55、町指定文化財)、個人蔵(102)は所蔵者宅の基礎部分のみが残存するような現況であり、詳細は不明である。

記念物(埋蔵文化財)は、安渡遺跡(101)であり、明確な被害は確認されなかった。

5、町方地区

調査対象とした町方地区は、地番では上町、本町、末広町、新町、大町とされる市街地と小槌第 28 地割である。また、その背後の丘陵部に存在する記念物(史跡・埋蔵文化財)も町方地区として報告する。調査対象とした部分の小槌第 28 地割は、国土地理院 25,000 分の 1 地形図や図 1 では小枕、白石、古廟とされる地域である。前述の大槌町教育委員会(1990)で町方地区として扱われているので、それに従った。背後の丘陵部も同様である。なお町方地区は、調査対象とした中で最も震災による被害が大きい。

町方地区で確認調査を実施した文化財は、44 件(うち 1 件は県指定文化財、13 件は町指定文化財)である。

有形文化財は、岩館家文書(37)、金崎氏系図(38)、四日町検断御用留(39)、大槌小学校所蔵郷土資料関係古文書(42)、藤屋文書(46)、田鎖辰男氏家文書(47)、神明堂(50)、前川善兵衛寄進神明堂石灯籠(50、町指定文化財・歴史資料)、神明堂獅子頭(50、町指定文化財・彫刻)、小川孫兵衛善康作木魚(52)、小川家文書(53)、大念寺(68)、大念寺十一面観音(68、町指定文化財・彫刻)、小槌神社(69)、前川善兵衛寄進小槌神社石灯籠(69、町指定文化財・歴史資料)、小槌神社石灯籠(69)、金銅伝牛頭天王座像懸仏(69、町指定文化財・彫刻)、大槌町立図書館蔵書等(75)、台付浅鉢土器(77、町指定文化財・考古資料)、町史編纂関係資料・公文書(78)、消防日誌等(79)、御国産物書上・大槌通、他 1 点(82)、赤武家文書(83)、江岸寺山門(84、町指定文化財・建造物)、きりしたん禁止の制札(84、町指定文化財・歴史資料)、木造法華經三十部読誦供養塔(84、町指定文化財・歴史資料)、江岸寺所蔵の仏像・各種石碑石塔類(84)、絹本着色菊地祖晴画像(85、町指定文化財・絵画)、牧庵鞭牛橋供養碑(103、町指定文化財・歴史資料)、癸卯飢渴亡者供養碑(104、町指定文化財・歴史資料)、大槌村記録(106、町指定文化財、歴史資料)である。小槌第 28 地割に所在する 103、104 の供養碑は被害がなかった。市街地では、丘陵斜面に立地している大念寺及び所蔵資料、小槌神社及び所蔵資料以外は(小槌神社所蔵文化財の内、金銅伝牛頭天王座像懸仏(69、町指定文化財・彫刻)は焼失している)、震災により所蔵者宅・施設は大きな被害を受けており所蔵していた有形文化財も多くは流失・焼失したものと推測される。ただし、そうした状況が確認できたものは少なく、詳細不明として報告するものが多い。なお、町指定文化財の台付浅鉢土器(77、考古資料)、きりしたん禁止の制札(84、歴史資料)、大槌村記録(106、歴史資料)は教育委員会が震災以前から保管していたため、被害はない。

有形民俗文化財は、オシラサマ 5 件である。48(町指定文化財)、49、80、81、96(小枕地区)であり、48 は焼失が確認されたが、他の 4 件は、所蔵者宅の基礎部分のみが残存するような現況であり、詳細は不明である。

記念物(埋蔵文化財)は、大槌城跡(40、県指定・史跡)、大槌代官所跡(41)、天王社跡(43)、役屋稻荷社跡(44)、金崎館跡(45)、観音平遺跡(51)、御社地跡(76)、小枕遺跡(97、小枕地区)、白石遺跡(98、白石地区)である。御社地跡周辺で解体工事に伴う掘削がなされていること以外には、明確な被害は確認されなかった。

6、大槌地区

調査対象とした大槌地区は、地番では大槌第 14、17、23 地割、25,000 分の 1 地形図や図 1 では桑ノ畑、沢山、夏本、源水、大石前、屋敷とされる地域である。

この地区で確認調査を実施した文化財は、10 件(うち 1 件は町指定文化財) である。

有形文化財は、小西家文書(86)、大槌村御検地野帳之写(100、町指定文化財・歴史資料) である。小西家文書は流失したことを確認した。御検地野帳之写は、被災したものの流失・焼失は免れ、岩手県立博物館で処理作業中である。

有形民俗文化財は、オシラサマ 3 件(88、89、91)である。91 は直接的な被災範囲外であり、被害は確認されない。被災範囲内の 88、89 は所蔵者宅の基礎部分のみが残存するような現況であり、詳細は不明である。

記念物(埋蔵文化財)は、挟田館跡(87)、沢山遺跡(90)、夏本遺跡(93)、大石前遺跡(94)、くまん館跡(95)である。いずれも明確な被害は確認されなかった。

VI、成果と課題

今回の大槌町における津波及び火災の直接的な被災範囲及びその近接地の文化財の悉皆調査により、あらためて震災被害の甚大さを確認することになった。直接的な被災範囲内で流失・焼失を免れた有形の文化財は極僅かである。私どもが応急処置と現状確認を行い、処理を岩手県立博物館が担当することになったのは、吉里吉里地区の「前川家資料」のみである。地元で所蔵されていて被災した前川善兵衛関係の文書類を見出せたことが、今回の最大の成果である。

現地での確認調査時には、聞き取り調査を実施し、所蔵者宅・施設の特定に努めるとともに、震災後の所蔵者の現況にかかわる情報も収集した。現在は、仮設住宅で生活されていることが確認できた所蔵者の方もいらっしゃる。今回の調査で現存が確認できなかった有形文化財の多くは、震災時に流失・焼失してしまった可能性が極めて高いものの、仮設住宅などにおいて、引き続き所蔵されている可能性もある。そうした方々に対する補足調査が、今後の課題として残されている。

表1、確認調査票(表面)

<input type="checkbox"/> Level.0 <input type="checkbox"/> Level.1 <input type="checkbox"/> Level.2 <input type="checkbox"/> Level.3	所在地図番号	大植町被災歴史資料所在確認調査票					
資料名(資料群)		指定区分	<input type="checkbox"/> 国 <input type="checkbox"/> 県 <input type="checkbox"/> 町 <input type="checkbox"/> 未	種別			
所有者 (代表・団体名)							
所在地	(被災前)〒 -						TEL:
	(被災前)〒 -						TEL:
移転の可能性	<input type="checkbox"/> あり (<input type="checkbox"/> 県内 <input type="checkbox"/> 県外 <input type="checkbox"/> 未定) <input type="checkbox"/> なし						
移転後連絡先	〒 -						TEL:
現状確認	被害状況	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> 流失 <input type="checkbox"/> 全壊 <input type="checkbox"/> 割れ <input type="checkbox"/> 虫害	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 焼失 <input type="checkbox"/> 半壊 <input type="checkbox"/> 破れ <input type="checkbox"/> サビ	<input type="checkbox"/> 不明 <input type="checkbox"/> 一部流失 <input type="checkbox"/> 浸水 <input type="checkbox"/> ひび <input type="checkbox"/> カビ	<input type="checkbox"/> 一部焼失 <input type="checkbox"/> 離散 <input type="checkbox"/> 腐食	保存意思確認	<input type="checkbox"/> 保存 <input type="checkbox"/> 相談 <input type="checkbox"/> 困難
	被害詳細	状態					
応急処置(修復)の必要性	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	応急処置(修復)先	一次				
			二次				
写真撮影	調査時	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	応急処置(修復)後	一次	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	二次	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
		特記事項					
調査日:平成 年 月 日 記入者							

表1、確認調査票(裏面)

調査時	応急処置(修復)後
<p>応急処置(修復)時の変化</p> <p style="text-align: right;">担当者</p>	
<p>応急処置(修復)時の変化</p> <p style="text-align: right;">担当者</p>	
<p>特記事項</p>	

表2、確認した文化財の詳細データ

調査票番号	所在地番号	指定区分	種別	名称	住所	所蔵者	被害	被害の状況	概要	調査日
1	40		記念物	畑中遺跡	吉里吉里4丁目		なし			9月1日
2	40	未	有形文化財	塚鼻稻荷神社	吉里吉里4丁目	個人蔵	なし			9月1日
2	40	未	記念物	塚鼻一里塚	吉里吉里4丁目	個人蔵	なし			9月1日
3	41	未	記念物	新館跡	吉里吉里3丁目		なし			9月1日
4	43	未	有形文化財	前川稻荷大明神	吉里吉里2丁目	個人蔵	あり	流失	津波被害顕著。氏神倒壊など。	9月1日
5	43	未	有形民俗	オシラサマ	吉里吉里1丁目	個人蔵	不明	所蔵者宅流失	〈聞き取り〉建物流出。仮設住宅に移転済みとの情報。	9月1日
6	43	未	有形民俗	オシラサマ	吉里吉里2丁目	個人蔵	不明	所蔵者宅流失	〈聞き取り〉建物流出。仮設住宅に移転済み。	9月1日
7	43	未	有形民俗	オシラサマ	吉里吉里2丁目	個人蔵	不明	所蔵者宅流失	〈聞き取り〉建物流出。当主は釜石へ避難中。	9月1日
8	43	未	有形民俗	オシラサマ	吉里吉里2丁目	個人蔵	なし		現状を確認、由緒等を聞き取り。	9月1日
9	43	未	有形民俗	オシラサマ	吉里吉里2丁目	個人蔵	不明	所蔵者宅流失		9月1日
9	43	町指定	有形民俗	マイリノホトケ	吉里吉里2丁目	個人蔵	不明	所蔵者宅流失		9月1日
10	43	未	有形民俗	オシラサマ	吉里吉里3丁目	個人蔵	なし		所蔵者よりの聞き取り。	9月1日
11	43	未	記念物	三日月遺跡	吉里吉里1丁目		なし		縄文土器を表探。	9月1日
12	43	未	記念物	吉里吉里Ⅱ遺跡	吉里吉里1丁目		なし			9月1日
13	43	未	記念物	前川善兵衛歴代の墓	吉里吉里2丁目		あり		墓石1基転倒。	9月1日
14	43	未	有形文化財	金比羅神社	吉里吉里1丁目		あり	半壊・浸水	鳥居、石碑等倒壊、その他。	9月1日
15	44	未	記念物	田中館跡	吉里吉里3丁目		なし			9月1日
16	44	未	記念物	赤沼経塚	吉里々々第30地割		なし		震災以前に道路工事に伴い調査し、消滅。	9月1日
17	44	未	記念物	向館跡	吉里々々第31地割		なし			9月1日
18	44	未	記念物	崎山弁天遺跡	吉里々々第31地割		なし			9月1日
19		町指定	無形民俗	吉里吉里虎舞			なし		〈聞き取り〉保存会員に被害なく、本年の祭事でも奉納した。	9月2日
20		未	無形民俗	吉里吉里大神楽			あり	流失	〈聞き取り〉宿・道具は流失するが道具は新調済み。この地の祭りにも奉納した。	9月2日
21		未	無形民俗	吉里吉里鹿子踊			あり	流失	〈聞き取り〉道具は流失するが道具は新調済み。この地の祭りにも奉納した。	9月2日
22		未	無形民俗	波板大神楽			あり	一部流失	〈聞き取り〉保存会員に犠牲者、他所への移住者があり、本年の祭礼で奉納できなかった。	9月2日
23	27	未	有形文化財	平野家文書	吉里々々第9地割	個人蔵	なし		同家よりの聞き取りによる。	9月1日
23	27	未	有形民俗	オシラサマ	吉里々々第9地割	個人蔵	なし		同家よりの聞き取りによる。	9月1日
24	26・29・40・41	未	記念物	新城館跡	吉里々々第5地割		なし			9月1日
25	41		記念物	吉里吉里Ⅲ遺跡	吉里吉里2丁目		なし			9月1日
26	41	未	記念物	古寺跡	吉里吉里4丁目		なし		吉祥寺の故地とされる。	9月1日
27	41	未	記念物	北田遺跡	吉里吉里4丁目		なし			9月1日
28	24	未	有形文化財	宇夫方文書	吉里々々第11地割	個人蔵	なし		同家よりの聞き取りによる。	9月2日
29	41	未	有形文化財	釈迦如来	吉里吉里4丁目	吉祥寺	なし		聞き取りできず。ただし付近の状況から被害なき模様。	9月1日

表2、確認した文化財の詳細データ

調査票番号	所在地番号	指定区分	種別	名称	住所	所蔵者	被害	被害の状況	摘要	調査日
30	41	未	有形文化財	吉祥寺	吉里吉里4丁目	吉祥寺	なし		聞き取りできず。ただし付近の状況から被害なき模様。	9月1日
31	28	未	記念物	アサガ尻砲台場跡	吉里々々第14地割		なし		人工的な段を確認。	9月2日
32	43	未	記念物	花道遺跡	吉里吉里4丁目		なし		表採なし。	9月2日
33	57	未	記念物	吉里吉里I遺跡	吉里吉里2丁目		なし			9月2日
34	27	未	有形文化財	台野家文書	吉里々々第10地割	個人蔵	なし		近世・近代文書。平成2年に大槌町教委が調査。	9月2日
35	41	未	有形文化財	天照御祖神社	吉里吉里3丁目	天照御祖神社	あり		境内に地割れ、扁額落下。鳥居・石碑・狛犬など倒壊。	9月2日
36	43	未	有形文化財	前川家文書	吉里吉里2丁目	個人蔵	あり	浸水(一部流失の可能性有)	震災時には友良氏宅所蔵。同宅流失後、辛うじて回収。	9月2日
37	61	未	有形文化財	岩館家文書	本町	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊。		10月30日
38	61	未	有形文化財	金崎氏系図	本町	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊。		10月30日
39	61	未	有形文化財	四日町検断御用留	本町	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊。		10月30日
40	53	県指定	記念物	大槌城跡	小槌第32地割ほか		なし			10月30日
41	61	未	記念物	大槌代官所跡	上町		なし			10月30日
42	60	未	有形文化財	大槌小学校所蔵郷土資料関係古文書	上町	大槌小学校	不明	所蔵施設一部焼失。		10月30日
43	52	未	記念物	天王社跡	小槌第32地割		なし			10月30日
44	52	未	記念物	役屋稲荷社跡	小槌第32地割		なし			10月30日
45	52	未	記念物	金崎館跡	小槌第32地割		なし			10月30日
46	60	未	有形文化財	藤屋文書	上町	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊。		10月30日
47	60	未	有形文化財	田鎖辰男氏家文書	上町	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊。		10月30日
48	60	町指定	有形民俗	オンラアさま	上町	小槌神社	あり	焼失		10月30日
49	60	未	有形民俗	オンラサマ	上町	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊。		10月30日
50	60	未	有形文化財	神明堂	上町		あり	流失(全壊)		10月30日
50	60	町指定	有形文化財	神明堂石灯笼	上町		あり	流失		10月30日
50	60	町指定	有形文化財	神明堂獅子頭	上町		あり	流失		10月30日
51	60	未	記念物	観音平遺跡			なし			10月30日
52	53	未	有形文化財	小川孫兵衛善康作木魚	本町	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊。		10月30日
53	53	未	有形文化財	小川家文書	本町	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊。		10月30日
54	54	未	有形文化財	安渡小学校所蔵郷土資料	安渡2丁目	安渡小学校	不明		小学校は移転。	10月30日
55	55	未	有形文化財	二渡神社(現大槌稲荷神社)	安渡2丁目	大槌稲荷神社	あり	一部流出	鳥居・社標が流出。社殿は被害無し。	10月30日
55	55	未	有形文化財	二渡神社(現大槌稲荷神社)縁起	安渡2丁目	大槌稲荷神社	なし			10月30日
55	55	町指定	有形文化財	前川善兵衛寄進石灯笼	安渡2丁目	大槌稲荷神社	なし			1月10日
55	55	町指定	有形文化財	前川善兵衛寄進手水鉢	安渡2丁目	大槌稲荷神社	なし			1月10日

表2、確認した文化財の詳細データ

調査票番号	所在地番号	指定区分	種別	名称	住所	所蔵者	被害	被害の状況	摘要	調査日
55	55	町指定	有形民俗	オシラアさま	安渡2丁目	大槌稲荷神社	なし			1月10日
56	63	未	有形文化財	三浦家系図録等	安渡3丁目	個人蔵	不明		水産庁現蔵の可能性あり。	10月30日
57	55	未	有形文化財	和蘭陀船入港の記録	安渡か?	個人蔵	不明		津波以前に所在不明となったか。	10月30日
58	55	未	有形文化財	大槌古城物語	安渡3丁目	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊。		10月30日
59	64	未	記念物	赤浜Ⅱ遺跡	赤浜1丁目		なし			10月30日
60	64	未	有形民俗	オシラサマ	赤浜2丁目	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊。		10月30日
61	64	未	有形文化財	岡谷家系譜略	赤浜2丁目	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊。	所蔵者は不在(仮設に転居の由)	10月30日
62	64	未	記念物	三日月神社経塚	赤浜2丁目		なし			10月30日
63	64	未	記念物	三日月遺跡	赤浜2丁目		なし			10月30日
64	68	未	記念物	弁天島経塚	赤浜		不明		島に渡れず未確認	10月30日
65	69	未	記念物	赤浜Ⅰ遺跡	赤浜2丁目		なし			10月30日
66	65	未	記念物	赤浜Ⅳ遺跡	赤浜2丁目		なし		遺跡内に仮設住宅建設。	10月30日
67	65	未	記念物	赤浜Ⅲ遺跡	赤浜3丁目		なし			10月30日
68	52	未	有形文化財	大念寺	上町	大念寺	なし			10月30日
68	52	町指定	有形文化財	大念寺十一面観音	上町	大念寺	なし			10月30日
69	60	未	有形文化財	小槌神社	上町	小槌神社	あり	軽微	鳥居の一部が火災に遭う。	10月30日
69	60	町指定	有形文化財	小槌神社石灯籠	上町	小槌神社	なし		延享5年前川善兵衛寄進のもの。	10月30日
69	60	未	有形文化財	小槌神社石灯籠	上町	小槌神社	なし		寛政11年後藤茂伝治寄進灯籠2基、大槌村・小槌村寄進灯籠あり。	10月30日
69	60	町指定	有形文化財	金銅伝牛頭天王座像懸仏	上町	小槌神社	あり	焼失	所蔵者宅は津波後の火災により全壊。	10月30日
70	55	未	有形文化財	嘉永6年騒立押寄手扣	安渡3丁目	個人蔵	不明			10月30日
71	不明	未	有形文化財	古館昭二家文書	赤浜1丁目	個人蔵	不明		十王館氏よりの聞き取りによるが、所在不明。	10月30日
72	63	未	有形文化財	口開前鯨漁誤証文・嘉永5年各浦連名嘆願書	安渡3丁目	漁業組合	不明		所蔵者が大槌孵化場に移転。	10月30日
73	55	未	有形文化財	明治30年代大槌湾内図		個人蔵	不明		十王館氏よりの聞き取り水産庁現蔵の可能性あり。	10月30日
74	62	未	有形文化財	安渡支所文書(公文書)	安渡2丁目	安渡支所(公民館)	不明	所蔵施設全壊		10月30日
75	53	未	有形文化財	図書等	大町	大槌町立図書館	不明	所蔵施設全壊。	遠野市立博物館がレスキューした。	11月5日
76	53	未	記念物	御社地跡	末広町		不明		「妙法蓮華経」の石碑は倒れているが現存。	11月5日
77	53	町指定	有形文化財	台付浅鉢土器	末広町	御社地ふれあいセンター	なし	所蔵施設全壊。	町教育委員会で保管	11月5日
78	53	未	有形文化財	町史編纂関係資料・公文書	新町	大槌町役場	不明	所蔵施設全壊。		11月5日
79	53	未	有形文化財	消防日誌等	大町	大槌消防署	不明	所蔵施設全壊。		11月5日
80	53	未	有形民俗	オシラサマ	末広町	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊		11月5日
81	53	未	有形民俗	オシラサマ	末広町	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊		11月5日
82	48	未	有形文化財	御国産物書上・大槌通、他1点	末広町	個人蔵	不明	所蔵施設全壊。		11月5日
83	53	未	有形文化財	赤武家文書	末広町	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊		11月5日

表2、確認した文化財の詳細データ

調査票番号	所在地番号	指定区分	種別	名称	住所	所蔵者	被害	被害の状況	摘要	調査日
84	53	町指定	有形文化財	江岸寺山門	末広町	江岸寺	あり	焼失	建物は全壊(焼失)。同位置にて仮設寺院。	11月5日
84	53	町指定を含む	有形文化財	江岸寺内の仏像・制札・木造供養塔および碑・塔婆・墓など	末広町	江岸寺	あり	焼失・流失	宝印塔・蛇口・「あとみろそわか」碑の残欠あり。町指定の制札は被害無し。教育委員会で保管中	11月5日
84	53	未	有形文化財	江岸寺「大賢学道墓碑」「岷山好学墓碑」	末広町	江岸寺	不明			11月5日
85	53	町指定	有形文化財	絹本着色菊地祖晴画像	末広町	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊		11月5日
86	48	未	有形文化財	小西家文書	大槌第23地割	個人蔵	あり	流失	(聞き取り)所蔵者は震災前に大槌北小学校東側に移転。移転先で震災に遭い文書類はすべて流失。	11月5日
87	38	未	記念物	挾田館跡	大槌第23地割		なし			11月5日
88	38	未	有形民俗	オシラサマ	大槌第23地割	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊	(聞き取り)所蔵者は仮設住宅に移住。	11月5日
89	38	未	有形民俗	オシラサマ	大槌第23地割	個人蔵	不明	所蔵者宅取り壊し済み		11月5日
90	38	未	記念物	沢山遺跡	大槌第23地割		なし			11月5日
91	38	未	有形民俗	オシラサマ	大槌第23地割	個人蔵	なし			11月5日
92	28	未	記念物	旋川砲台場跡	吉里々々第14地割		不明		説明碑あり。	11月6日
93	39	未	記念物	夏本遺跡	大槌第24地割		なし			11月6日
94	47	未	記念物	大石前遺跡	大槌第17地割		なし			11月6日
95	36	未	記念物	くまん館跡	大槌第14地割		なし			11月6日
96	67	未	有形民俗	オシラサマ	小槌第28地割	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊		11月6日
97	66・67	未	記念物	小枕遺跡	小槌第28地割		なし			11月6日
98	67	未	記念物	白石遺跡	小槌第28地割		なし			11月6日
99	64	未	記念物	イエノ沢遺跡	赤浜2丁目		なし		遺跡内に仮設住宅建設済み。	11月6日
100	38	町指定	有形文化財	大槌村御検地野帳之写	大槌第23地割	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊	(聞き取り)所蔵者は仮設住宅に移住。現在岩手県博で処理中。	11月5日
101	54/55	未	記念物	安渡遺跡	安渡2丁目		なし			11月6日
102	54	未	有形民俗	オシラサマ	安渡2丁目	個人蔵	不明	所蔵者宅全壊		11月6日
103	66	町指定	有形文化財	牧庵鞭牛橋供養碑	小槌第28地割		なし			1月10日
104	66	町指定	有形文化財	癸卯飢渴亡者供養碑	小槌第28地割		なし			1月10日
105	55	町指定	有形文化財	鉄造如来像	安渡2丁目	個人蔵	なし		町教育委員会からの情報提供	なし
106	60	町指定	有形文化財	大槌村記録	上町	個人蔵	なし		町教育委員会で保管中	なし